

令和七年度 卒業式 【式辞】

校門の桜のつぼみが、暖かい春の訪れを告げる、今日の良き日に、七十二名の皆さんが、五常小学校を巣立っていくことを、心から嬉しく思います。

皆さん 卒業、おめでとう。

さきほど、ひとりひとりに 卒業証書を渡しました。

この中には六年間の皆さんの努力のあとが、また、これまで皆さんを励まし支えて下さった家族、先生、地域の皆様の思いが、刻まれています。

この意味を、しっかりとかみしめてほしいと思います。

保護者の皆様

お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心も、体も、大きく成長された姿をご覧になり、感慨も「ひとしお」のこっと存じます。

お家では、こんにちまでの六年間、毎朝、お子様を励まし、学校へと送り出してこられました。

お子様が帰ってくれば話を聞き、お子様のことで悩み、そして、心から慈しんでこられました。

このことに、心から敬意を表しますとともに、この間、学校にお寄せ頂いたご厚情に、心から感謝申し上げます。

さて、本日の卒業式にあたり、

枚方市教育委員会 総合教育部部長 ますお ともはる様、をはじめ、ご来賓として地域の皆さまがお越しになっています。

高いところからではございますが、謹んで厚く、御礼を申し上げます。

卒業生の皆さん

皆さんの六年間、どうでしたか？

短かった、いや、とても長かった。楽しかった、いや、本当は、すぐくしんどかった。いろんな思いが、頭を駆けめぐっているかもしれないね。

校長先生がこの学校に赴任したのは、5年前、あなた方が2年生のときでした。そこでは、時折強い雨が降り、風が強く吹くときがありました。三年生になって少し晴れ間が見えてきて、四年生では、ようやく安定した晴天がもどってきました。

しかし、思春期に入る5年生以降は、突然のゲリラ豪雨が、たびたびありました。悩みを多く抱えて、時にはともだち同士で、お互いを傷つけ合うこともあったと思います。

でもこの間、皆さんは、みんな、まるで冬の大地から芽吹く若草のように、ゆっくりと、少しずつ、しかし、確実に成長していき、今日の卒業式を迎えました。そのことを、心からうれしく、少しさみしく、そして少し、ほっとしています。

さて、ここからは、皆さんの旅立ちをお祝いし、はなむけの言葉を贈ります。

テーマは、「先が見えない時代」の、人生の分かれ道について。

皆さんの中には、すでに私学受験などで、四中以外に進学する人がいます。

同様に、これから大人に近づいていくと、人生の分かれ道に出会い、進む道を選ぶ場面が出てきます。

こういうとき、偉人の名言が、進むべき道に光を照らしてくれます。

まずは、ウィンストン・チャーチルの言葉です

「未来のことはわからない。しかし、我々には過去が希望を与えてくれるはずである」

チャーチルは、とても有名なイギリスの政治家で、第二次大戦の時の首相として活躍しました。「名言の宝庫」と言われるくらい、すごく文才を持っている人で、なんと、ノーベル文学賞を受賞しています。

実は、校長先生は、今広く世間で言われていることについて、気になることがあります。

今は、価値観の多様化やAIなどテクノロジーの発達によって「先が見えない時代」である、といわれています。

しかし、いまだかつて、「先が見える時代」などがあったのでしょうか。

コンピューターやスマホ、ましてやAIなんて、身近になったのは、最近のこと。昔は、そんなものなかったわけですから、世間のリーダーは自分自身の頭で考え、国や企業を動かしていきました。知識だけではなくて、自分の頭で考えを巡らせて、勝負していたのです。

つまり、チャーチルが言いたいの、こういうことだと思えます。

先が見えない、でも何か重たいことを決めないといけないとき、「これまで学んできたこと」や「過去の経験」に基づいて、自分自身を信じて判断するしかない――。

そうすると、問題は、今まで学んできたことや経験に自信を持てるような、そんな時間の過ごし方をしてきたかどうか、ということですよ。

そんなこと言ったって、これからどうしたらよいかわからないよ、といたいでしょう。ここで、二つ目の名言ですよ。

このあいだの冬のオリンピック、カーリング代表チームのメンタルコーチ白井和幸さんの言葉です。

「今、目の前にあることに対して一生懸命に努力して、その結果がどうであれ、学んだこと、経験したことを積み重ねていくことだ。」

日本の小中学校では、ダメです、とか、やってはいけません、が先にくることが多いですね。でも校長先生は、五常小の応援歌「五常の花」にあるように、「まずやってみよう」がよいと思っています。

だから、この五常小で、その壁をぶち破ってやろうと思っ
て、校長になりました。

みなさんの学校の成績は、さまざまだと思います。でも学校の成績では測れない才能を、一人ひとりが、必ず持っています。

みなさんは、今は小さいかもしれないが、なにかの可能性を持っています。中学校では、それを見つけてほしい。そして、これから出会う中学校の先生たちや、仲間たちと一緒に、その可能性を育ててほしいとおもいます。

でも、今、自分なんて、不安ばかりだよという人、いますよね、でもね、不安であたりまえ、全然大丈夫です。

ただし、必要なのは、目の前にあることへの努力。努力なしでは、何も生まれません。そこで3つめの名言があります。

「努力はチャンスの入場料」

チャンスはいくらでも転がっているのに、準備ができていないせいで見逃している人は多いんですね。目の前のことに一生けん命努力を続けていると、やりたいこと、知りたいことが、なんとなく見えてくる。そういうことに心のアンテナを張って、脳ミソがハッと反応したらチャンスを逃さず、すぐに行動してみてください。

皆さんの進学する中学校が、「毎日楽しい学校」になるかどうかは、ほかでもない、自分自身にかかっています。

充実した中学校生活になることを心から願い、はなむけの
言葉といたします。

令和八年三月十八日

枚方市立五常小学校 校長 榎 正文